

【当日の主な意見・感想】

1. これからの時代に求められる人材像について

- ・単に指示されたことをこなすだけでなく、自ら学び、成長しようとする意欲のある人材が求められているが、最近は日本全体でそういった人材が減っている印象がある。
- ・グローバル化や多様化する社会において、円滑なコミュニケーション能力は不可欠である。
- ・昨今はチームで成果を上げることが求められており、周囲と協力し合意形成を図る力が求められる。
- ・企業だけでなく社会全体にとって良い人材とは、世界の中にいながら、自分がある世界に疑問を持つことができる人であり、博士課程での経験は社会システムを変革する力になる。

2. 企業と大学のギャップについて

- ・企業は論理的思考力や専門知識より、主体性やリーダーシップ、課題設定能力など、イノベーションに繋がる力を求めており、博士課程での研究は貴重な経験になると思う。
- ・大学の教育はカリキュラムをこなすことに重点が置かれがちな印象だが、企業では研修を通じてどのような行動変容が起こるかを重視している。
- ・企業は10年先の社会を見据えて投資の検討をしているが、大学の研究においても各分野で何十年も先のことを見据えたグランドプランがあるということで、企業も大学も同じ視点を持つことで同じ方向を向いて連携できると思う。

3. 博士課程の現状と課題について

- ・現在は経済的な面などから博士課程に進学しづらい状況であり、大学と企業が連携した企業とのマッチングを行うなど、学生の不安を取り除くことが重要である。
- ・博士課程進学者は大学教員にしかねないと考えている学生が多いようだが、企業ではキャリア採用扱いになるケースもあるので、積極的にアピールするべきである。
- ・博士課程の魅力向上と進学者増加のため、経済的支援の充実や多様なキャリアパスの提示などが必要。

4. 理学の価値と社会への貢献について

- ・理学部は長期的な視点に立ち、科学の原理解明など基礎研究を進めることで、未来社会に貢献している。
- ・ノーベル賞受賞者の多くが基礎研究に取り組んだように、理学はイノベーションの源泉となり、社会に新たな価値を提供する可能性を秘めている。
- ・理学部出身者は、論理的思考力や問題解決能力に優れており、専門知識だけでなく、社会貢献意識を持つ人材として期待されており、社会全体に波及効果をもたらすと考えられる。
- ・理学の価値を社会に広く理解してもらうためには、積極的な情報発信や対話を通じた信頼関係の構築が重要である。

5. 理学懇話会全体に対するご意見

- ・活発な意見がかわされて良い雰囲気だと思う。
- ・初めて参加したが、理学部が社会との対話、接点を重視されていること、このような会が24回も続いていることに率直に感銘を受けた。
- ・一般的な、情報交換、意見交換ではなく、大学側も課題認識を率直に述べられ、学外と意見交換するお互いWIN-WINとなるような懇話会であることを期待したい。